

教育デザイン室の今後についてのアンケート 結果報告

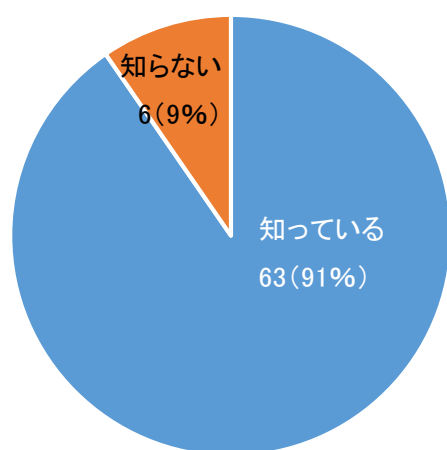
アンケート期間:平成 29 年 1 月 13 日(金)～平成 29 年 1 月 31 日(火)

回答者数:69 人

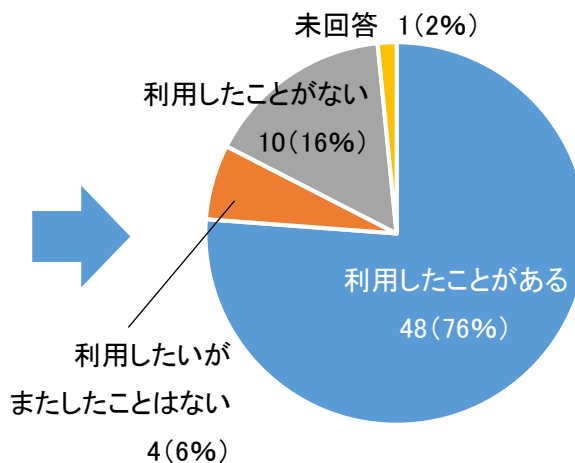
Q1・Q2 所属・役職について

法文学部／法文学研究科	9(13%)	助教	3(4%)
教育学部／教育学研究科	8(12%)	講師	10(14%)
農学部／農学研究科／連合農学研究科	7(10%)	准教授	24(35%)
社会共創学部	6(9%)	教授	16(23%)
理学部／理工学研究科(理学系)	3(4%)	職員	13(19%)
工学部／理工学研究科(工学系)	5(7%)	その他	3(4%)
医学部／医学系研究科	7(10%)		
教育学生支援機構	6(9%)		
社会連携推進機構	2(3%)		
国際連携推進機構	4(6%)		
先端研究・学術推進機構	3(7%)		
その他	7(10%)		

Q3.教育デザイン室をご存知ですか

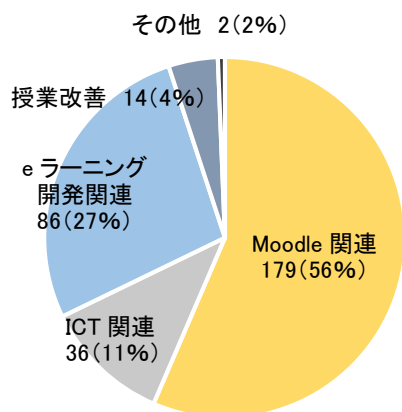
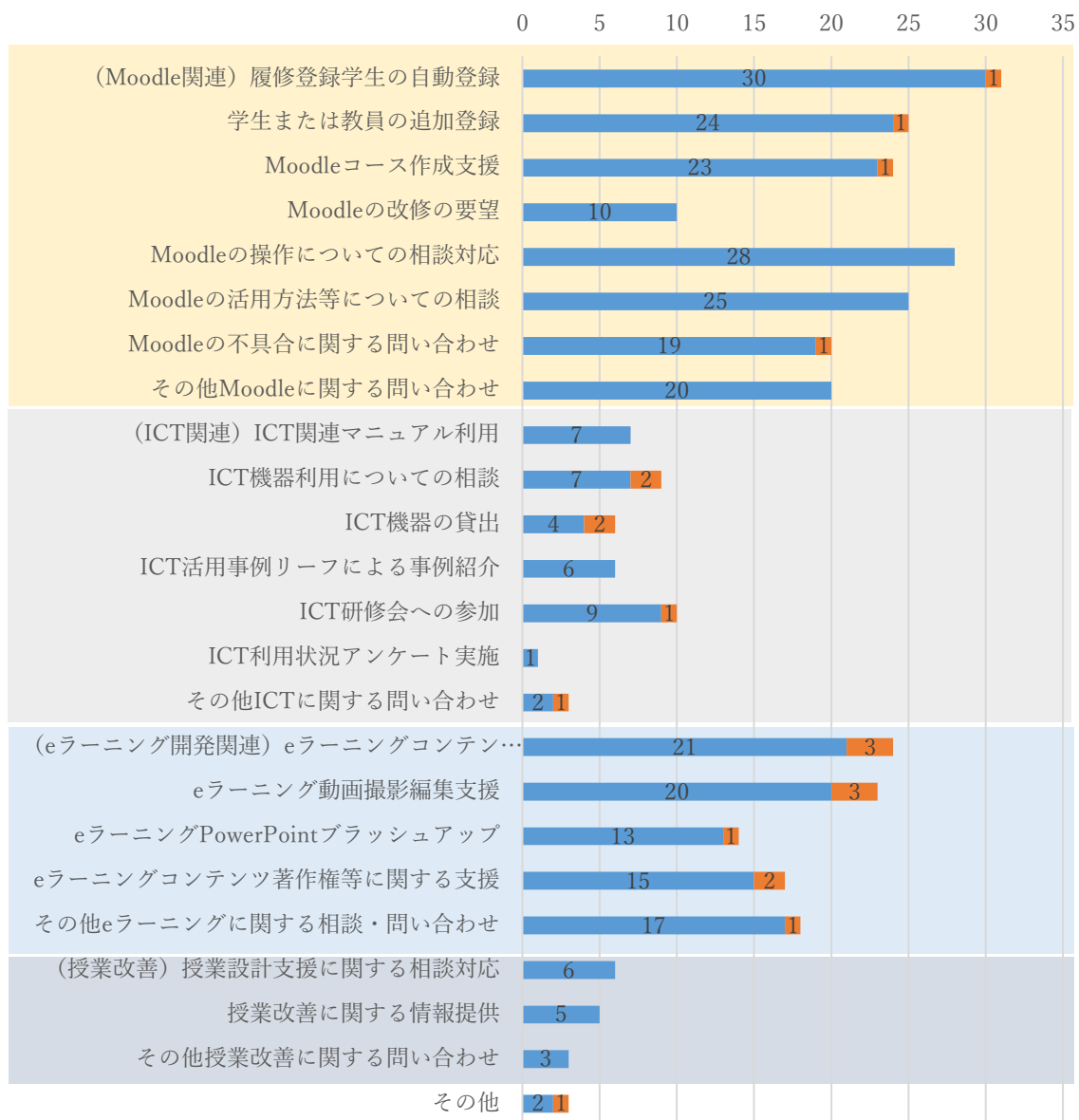


Q4.教育デザイン室を利用したことはありますか

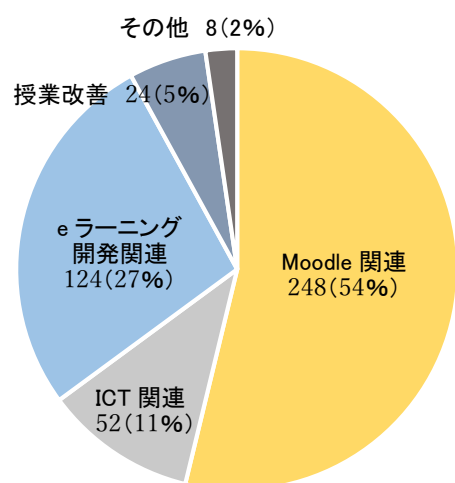
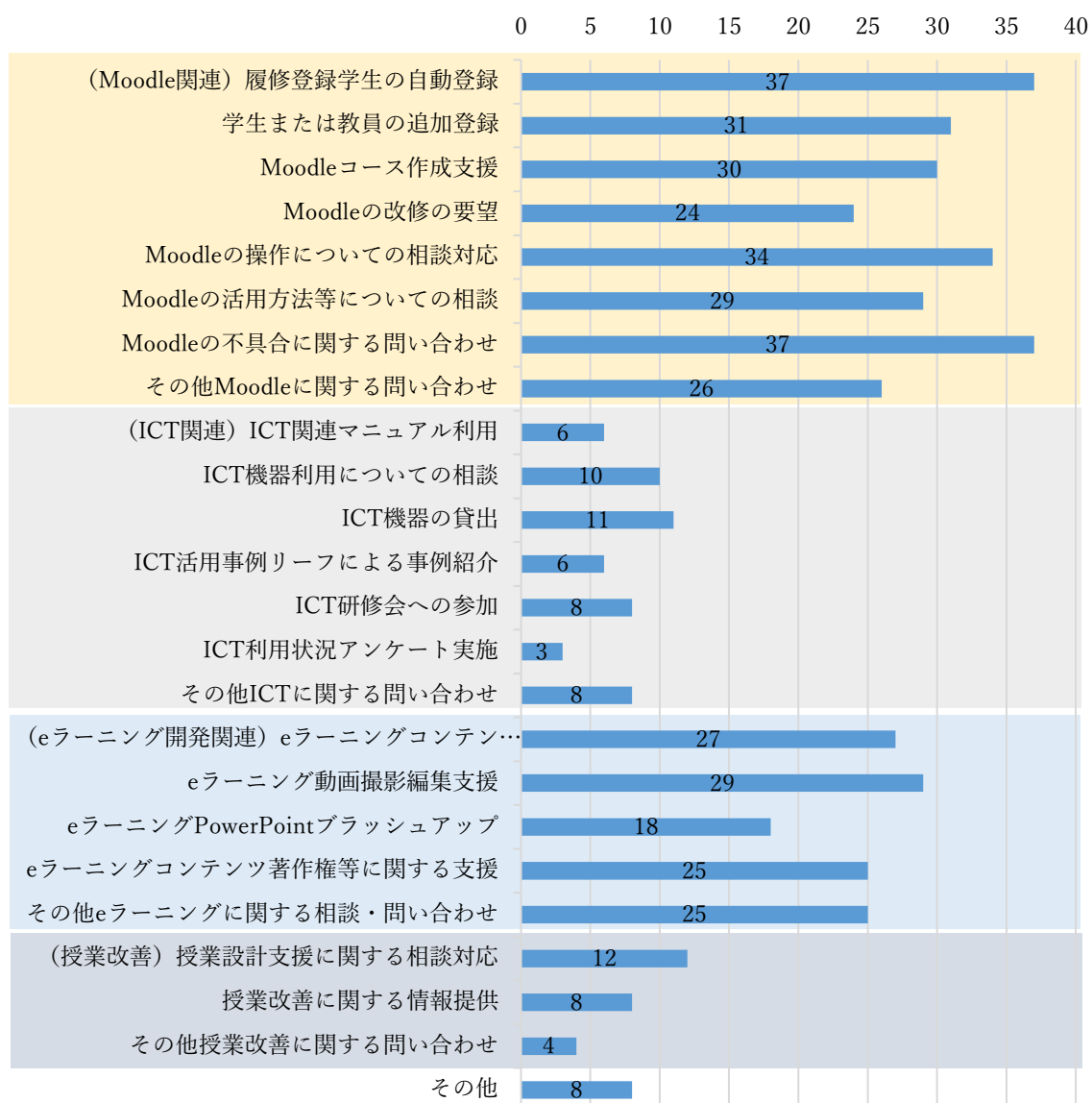


Q5・Q7.教育デザイン室の業務で利用したことがある、利用したい項目

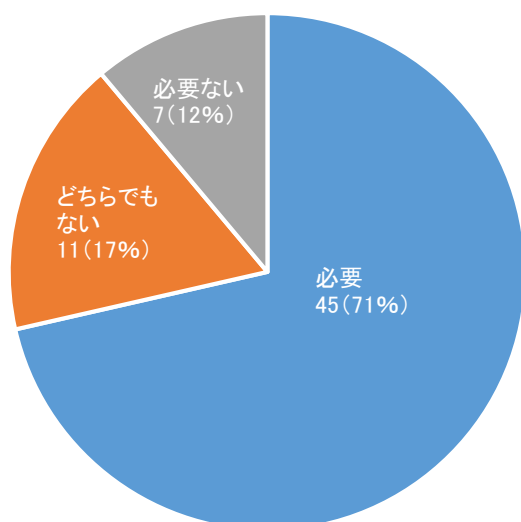
(参考:利用経験者の利用項目)



Q9.教員自身の作業あるいはサービス提供ができなくなった場合に授業に影響が出ると思う項目



Q10.教育デザイン室は必要ですか



Q11.必要と思う理由(自由記述)

	ID - 記述番号	記述内容 (誤字以外、原文のまま)
高等教育の 質保証に関 連した展望 と意見	1-1	Moodle の利用等の ICT に関する支援を専門的におこなう部署である <u>教育デザイン室がないと、本学の ICT 化を進めることはできませんので、必要だ</u> と思います。
	12-2	また、これまで利用したことはないが、 <u>ICT 機器等の活用は今後増加すると予想される</u> ので、ある程度の業務縮小は仕方ないかもしれないが、存続させるべきだと考える。
	15-2	教育デザイン室を廃止した場合、この基盤インフラが崩壊することを意味し、今後の <u>愛媛大学の教育研究体制に甚大な影響が及ぶ</u> 。
	15-4	また、今後大学のグローバル対応力を高めていく上で、Moodle と e-Learning についてはますますニーズが高まっていくとは、容易に想像することができるはずである。
	15-5	<u>教育デザイン室がなくなることによって、愛媛大学はグローバル対応に大きく立ち後れる</u> ことは避けられず、日本人の就学人口が減少傾向にある中で、 <u>留学生の就学支援に支障が出る</u> ことは愛媛大学自身の存続の危機に直結する。
	16-2	教育デザイン室の業務廃止ないし縮小は、 <u>愛媛大学における教育水準の低下に直結する</u> 「ゆゆしき事態」であることに間違いない。

16-5	補助金による運営が終了するとのことで、大学全体の予算が厳しくなる中、予算上の制約等があることは理解できるが、それでも可能な限り、現在の体制・業務内容を最大限維持することが、 <u>愛媛大学における教育水準の担保と向上につながる</u> ものと確信している。
21	<u>高等教育機関にとってID担当部署は必須</u> であり、かつその部署がEラーニングシステムの構築・運用に通じていることも不可欠と思われるため(名称は、変更しても構わないが、教育デザイン室の機能を担う部署は必須)。
22-2	大学教員は万能ではない。それぞれの役割を分担して <u>分業していかな</u> <u>いと、より良い教育に結びつけることがむずかしい</u> 。教育デザイン室は、我々教員を補助する役割を担っているため必要である。
28	資料をチェック頂いた上で動画撮影しました。特に資料に使っている <u>かなり多くの図の著作権チェックに関しては、私達教員ではとてもできない</u> 内容でした。例えば、雑誌 Nature の図は使っても良いけれども Science(どちらも同等の科学雑誌)の図は使用には費用がかかるなどがありました。今後これらのチェックを全て教員自らがしなければならないのであれば、とても e-learning の資料は作ることができないと思います。また、これらのチェックが甘くなれば、著作権の問題が沢山出てくるでしょう。 <u>教育デザイン室がなくなれば、e-learning は「修学支援システム」並のことしかできなくなるのではないかと</u> 危惧します。
29	<u>教育の質保証</u> が問われている状況において、形成的評価を前提とした教育スタイルの転換が求められている。この文脈において e ラーニングは不可欠なツールであり、 <u>大学としてコンテンツ作成を支援する部署が今後ますます必要</u> である。
30-3	また、学修ポートフォリオなどの利用により、様々な教育資料が容易に取り出せ利用できる <u>デジタル環境は必須</u> です。今後環境が大きく変化していく事を鑑みると <u>メディアセンター教育デザイン室は中心的な役割を持つ様になる</u> ものと考えます。まとまってなくてすみません。
34-1	Moodle や ICT 機器を活用した授業への技術的支援や授業改善に関する相談、e ラーニングコンテンツの制作等のご支援いただきました。その結果、対面授業では時間も足りず、人的リソースも足りないためやりきれない部分について、 <u>e ラーニングコンテンツで学生に提供することができるようになり、授業内容の充実、質の向上が図れた</u> と考えています。

	37	moodle のような e ラーニングプラットフォームは、今後の <u>大学教育においてあって当然のシステム</u> であり、これを利用した e ラーニングも今後は多くの教員に活用されるものと考えている。その意味でそのシステムの中核を担う部署は必ず必要。ただ、今現在では moodle や e ラーニングの必要性を感じている教員が少ない気がするので、 <u>大学全体として、もっと(無理矢理にでも)e ラーニングを推進したほうが良い</u> と思う。教育デザイン室という名前が、活動内容をイメージできるものではないので、あまり良くない。教育企画室と被る。そもそも、教育デザイン室と教育企画室が別れているのが解せない。ちなみに、私は e ラーニングを実施していません(コンテンツを作る時間がない)。
	38	E ラーニング、アクティブラーニングがいつそう進むことが予想される中、 <u>教員任せではバラツキが避けられない</u> 。
	40-1	医学部の学生が授業内容を理解するには、 <u>カリキュラムの授業時間だけでは難しい</u> 。また、学生は実際の患者に関わった経験が少ないので、 <u>イメージしやすい動画などの学習教材が必要</u> 。
	41-2	<u>大学として E-ラーニングを推進するのであれば、ぜひ教育デザイン室による支援は必要</u> と考えますし、これからの大学教育に E-ラーニングは欠かせないと思います。 <u>業務内容を厳選することは必要かもしれませんが、可能な限りのサービスの継続を願います</u> 。
教育実践の支援内容と成果に関連した意見	1-2	教育デザイン室では、単に機器の操作といったことだけでなく、 <u>インストラクショナルデザインを踏まえた授業支援</u> をおこなっています。
	7-2	また、今後積極的に取り組まれることになる <u>アクティブ・ラーニングや反転学習</u> について、教育デザイン室を存続させ、引き続き業務の遂行ができる体制を維持すべきだと考える。
	9	e ラーニング動画撮影編集支援で大変お世話になりました。スタッフの方々のとても仕事が丁寧でした。 <u>コンテンツは学生が実際に使いながら、改善を図っていくことが必要</u> なため、教育デザイン室の支援を引き続きお願いしたいです。
	10-1	講習会等に関する <u>資料作成の助言</u> が非常に助かっている。
	13	LMSやeラーニングに関して、今後も <u>専門家の支援が不可欠</u> です。
	16-6	個人的にこれまで、担当する専門講義における動画コンテンツの作成や講演会の録画に基づく教材作成、Moodle コースの活用に関するアドバイス等を中心に、 <u>教育デザイン室の体制・スタッフに支えられて、教員個人では対応できない教材開発を行うことができた</u> 。こうした取り組みを、

		今後仮に教育デザイン室の業務廃止・縮小となった場合に、教員個人で維持することはできず、ましてや、新たな教材開発等に積極的にチャレンジすることなど到底できない。
	16-8	<p>これまで、教育デザイン室による業務遂行・サポートにより、どれだけ助けられてきたか、また、授業に伴う教員負担の軽減という面でどれだけその「恩恵」に浴してきたか、本当に計り知れない。まだまだ多くの教員に教育デザイン室の貴重さと意義が知られているとは言い難く、残念な状況ではあるが、<u>若手の教員を中心に今後、より積極的な活用が図られるべき</u>と思う。</p> <p>以上、現場での教育を担当する一人の教員の立場から、改めて<u>現状の教育デザイン室の「廃止ないし業務縮小」には明確に「反対」</u>の意見を述べた上で、ぜひ、補助金に代わる新たな財源を確保した上で、今後とも引き続き教育デザイン室の体制・業務内容の「存続・維持」を強く求めたい。</p>
	18	効果的な <u>授業デザインのための助言が得られる専門機関は他に無く、とても有用</u> であるため。教員個人の裁量では、知識や技術が行き届かない範囲まで助力を求められる。
	20	講義にしろ、ゼミにしろ、ICT 機器を効果的に活用した運営は避けて通れなくなって来ており、その点で <u>インストラクションを行なってくれる専門部署があることはとても有用</u> であると思う。また、e ラーニング教材の作成にあたっては <u>専門的なサポートがどうしても必要</u> になると思うため。
	24-3	また、 <u>反転やブレンデッド型授業の場合、映像教材の作成も必要</u> になるので、その場合の支援もないとこのような授業ができない。
	27-4	教育デザイン室の活用をしてみたいという要望はあるが、そのための心理的・物理的なハードルもある。 <u>縮小というよりも、そうしたハードル面をクリアする方向で考えてもらえればあり難い</u> 。
	33	教育デザイン室のきめ細かな支援があつて、 <u>授業等の円滑な進行</u> が出来ている。
LMS 活用教育の支援の現状と展望に関する意見	3	MOODLE の支援がなくなる場合は、 <u>講義資料等の配付などの教育支援において、教育デザイン室は必要</u> です。ただし、教育デザイン室の専属人数がアンケートの説明にないので、判断できないところがあります。大学の財政が困窮しているので、必要存続でもその対応を検討することが必要と思われます。
	11-1	今年度より、授業の復習に <u>Moodle の小テストを実施しており、来年度以降も継続したい</u> 。

16-7	今後、 <u>Moodle コースの活用に止まらず、授業のマルチメディア化や多様な展開がますます求められる</u> ことに鑑みれば、教育デザイン室の体制・業務内容は、「廃止や縮小」ではなく、むしろ「拡充・強化」する方向で検討されるのが筋ではないかと考える。
17	教員の負担を軽減すること、特に <u>eラーニングコンテンツや Moodle 関連の作業など、専門性が求められる部分については必要</u> だと思います。
19-1	e-Learning を使用することで全学的に進めなければならないことが非常に円滑に実施できているが、Moodle に精通しているわけではないので、 <u>操作方法や活用方法等、支援が不可欠</u> である。
24-1	講義型授業はもちろんだが、アクティブ・ラーニング、 <u>反転授業においては moodle は不可欠</u> 。
25-2	教育デザイン室の存続が必要な理由として、個人的には現状では、予定はないのだが、 <u>Moodle をより活用していくことを考えた時にサポートする部署として必要</u> なのではないか、という点も挙げておきたい。教育デザイン室に関しては、Moodle 利用の範囲でしか、関わりがないので、あくまでも、その範囲での意見です。
27-2	そうした中で、今後 <u>Moodle のコース作成や活用方法等についての相談を是非とも行いたい</u> と考えている。また、受講数が多く、出席の管理や評価について Moodle やその他の ICT 機器の活用を今後進めたいと考えている。
31-1	<u>大人数授業で moodle や eラーニングコンテンツを使えなくては、有効な授業は行えません</u> 。現在 300 名、150 名、60 名を越える授業での課題管理や、eラーニングでの補習学習を moodle で行っています。今後も大人数の授業を担当する予定があります。
39	<u>KAGAC</u> (eラーニングによる免許状更新講習) 関連や「教職実践演習」、リフレクション・デイなど教職総合センターに関わる各種の業務、また学部授業等における予習・復習等のための Moodle 機能の各種活用。
41-1	個人的には <u>教育デザイン室による支援や提案がなければ、現在では常時使用している Moodle コースの効果的な利用は難しかった</u> と思います。私自身はもしかするとここ数年で得た知識と経験から、今後も Eラーニングを継続していくことがある程度はできるかもしれませんが、それでもサービスがゼロになれば困ることが多々あるものと予想します。まして、これまでには Eラーニングの経験がない教員がゼロからスタートする場合、非常に敷居が高くなることは間違いないでしょう。

	42	<u>Moodle を活用するにはそれなりの技術的支援が必要</u> だから。
Moodle 管理に関する意見	2	現在の規模で必要かどうかは別にして、 <u>Moodle の学生登録</u> 等を事務方ができないのであれば、最小限の機能は存続していただくと助かります。
	10-2	また、 <u>受講登録</u> に関しても、システムを利用するだけで簡単にできるので助かっている。
	11-2	受講人数が 100 名ほどで、履修 <u>登録学生の自動登録</u> のサービスがあると非常に助かります。
	12-1	moodle を多用しており、サポートがなくなることに不安を感じる。特に学生が <u>登録や利用の方法を理解していない場合など、自分で対応できる自信がない。</u>
	19-2	これら(操作方法や活用方法等の支援)が受けられない場合、 <u>コース管理者の負担が非常に大きくなる</u> ことが見込まれるが、 <u>コース管理者全員がその負担を負うことは、全学的に見て非常に効率が悪く</u> 、かつ、「このようなことができる。」という提案が受けられないので、各コースの技術的な向上が見込まれない。
	23	研修会等では一般的な作業が中心だし、日時の都合がつかない場合もあるので、個別の問題を必要な時期に解消するためにも、 <u>問い合わせ先や対応してくれる窓口として必要</u> だと思います。特に Moodle のバージョンがアップデートされブラウザの機能が変ったりする時期でもあり、今までできていた事が出来なくなってその振り替え措置をどうするか、新たに出来るようになったことをどう利用するか、個人がばらばらに確かめながら検討するのは、時間の無駄です。
	24-2	<u>受講生登録</u> を手動でやるとなると、とりわけ受講生が 100 名以上いる授業などでは手間がかかるし混乱も起きかねない。
	25-1	基本的には、これまで Moodle 上に、配付資料 PDF を載せておくこと、学生にレポートを提出させることといった基本的な形でしか利用していないが、学生の自動登録がなくなるのは、かなり手間である。首都圏の何か所かの私大で非常勤をしていた時の経験から、こういうシステムは、そもそも自動的に全ての授業に付随してくるものだと思っていたし、この先、そういう方向に進むのだと感じていた。(とはいえ私の所属する学部でも、あまり使っている人がいないようであるが。)愛媛大の状況で言えば、教育デザイン室の存続如何は別として、Moodle 機能は修学支援システムと一体化したようなものが望ましい。ともかくも、必要な時に個別に、 <u>教員側で学生登録というのは、利用範囲(の可能性)を狭める</u> 選択

		肢だと思う。
	26-2	e-learning の <u>受講者の登録や管理</u> についても、受講者が多数に及ぶ場合、教員個人が行うには限界があります。教育デザイン室の存在は大きいです。
	31-2	<u>履修登録学生の自動登録や追加登録</u> をお願いしたり、 <u>操作が不明な時や不具合があった際にすぐに相談できる部署がなくなるとは大変困ります</u> 。また、今後 moodle もバージョンアップがあると思いますが、それに伴う操作、活用方法について質問できる専門の部署がなくては大変困ります。(そもそもバージョンアップへの対応も専門の部署がなくてはできるものではありませんでしょう。)
教育活動継続困難への危機感に関連した意見	6-1	必修科目・大規模講義の運営は、 <u>Moodle などの e-learning システムがなければもはや不可能</u> です。アクティブ・ラーニングはその実施の一方で、大規模講義を必要とします。大規模講義を支える ICT システムは大学に必要不可欠です。その取組を行う教育デザイン室の必要性は言うまでもありません。
	8	以前からの利用に加えて、 <u>クォーター制が始まってから e ラーニングを導入しなければ学生の履修負担を軽減できなくなってきた</u> ので、さらに利用したいと思っていた矢先に、継続か廃止かと問われて非常に困ったと感じている。
	10-3	講習受講者範囲が数百人規模、また、 <u>国の法令にのっとって行っている講習</u> なので、Moodle や e ラーニングコンテンツにかんするサポートをしていただくことで、安心して講習の講師が来ています。
	16-1	教育デザイン室の現在の体制の廃止ないし業務縮小は、ただ一言、「あり得ない事態」だと考える。恥ずかしながら、今回のアンケートで初めて事態を知り、愕然とすると同時に、これほど大事な情報がどれだけの教員に伝わっているのか、率直に言って、強い危機感と深い憂慮の念を抱いている。Moodle コースを活用した <u>授業展開ひとつをとってみても、教育デザイン室による支援・バックアップ体制なしに現状を維持することはできない</u> 。
	31-3	さらに、moodle だけでなく、 <u>e ラーニングコンテンツを作成する際にサポートしていただける部署がなくなってしまうとコンテンツ自体をつくることができません</u> 。
	31-4	教育デザイン室がなくなってしまうと <u>これまでの授業方法の継続と、今後の改善が行えない</u> ようになると考えます。教育デザイン室の存続を切実に望みます。

	34-2	もし教育デザイン室がなくなり、今後、これらを教員(および職員)等、 <u>専門的知識・技術のない人材でやろうとした場合、専門的知識・技術の習得から始める必要があり、通常業務にさえ支障をきたす</u> ことが予想されます。
	35	プロテオサイエンスセンター城北ステーションの教員で、昨年から e ラーニングコンテンツを作成し、今年度から e ラーニング授業を担当しています。コンテンツの内容は非常に満足の行くできれば、これもひとえに教育デザイン室の皆さんのサポートがなければ、実現できなかったと思います。これからも、コンテンツの内容や評価方法を年々良いものにしていこうと、担当で話し合っております。しかし、私達の現在の状況では、 <u>教育デザイン室の体制がなくなった場合、コンテンツや評価方法の改善は対応できない</u> ことは明らかです。従いまして、何らかの形で「教育デザイン室の体制」を継続していただけますよう、強く要望致します。
	36	現在は、moodle 等の操作方法について、わからないことを質問すれば親切に教授して下さるので、使うことができています。 <u>この支援がなくなれば、自分がつまづいたら、もはや使わなくなる</u> ことは必至です。
学習支援不充足への危惧に類する意見	7-1	e-learning は、今後のわたしたち <u>大学教員や学生の学びにとって、とても必要な要素</u> であり、それを支援する学内組織である教育デザイン室を存続させることは必要不可欠であると考えます。
	27-1	現在、Moodle を利用して、学生の時間外学習や授業の予復習を行っている。また、 <u>介護等体験や教育実習、四国での運動部の大会など、学生の公欠が多く、その学生への学習支援が必要</u> であるが、そのために Moodle を活用している。必修の授業が多く、欠席学生が多いほど、個別での <u>学習支援が難しくなる</u> 。
	27-3	さらに、 <u>欠席学生への対応</u> や今後のより充実した授業のために、e ラーニングのコンテンツを増やしたいと思っている。
	30-1	教員数の減少により業務(教育, 研究, 社会貢献, 管理・運営)が急増している中で、 <u>学生に対する直接的な教育サービスは悪化し続けています</u> 。
	30-2	また、学生の予習・復習時間の確保も従来のアナログ的な方法では、非効率です。 <u>IoT, AI の時代へと進んでいる中で、逆戻りすることは学生にとっても不利益</u> となることが考えられます
	40-2	ただの動画を使用した場合、 <u>学生の学習状況が把握できない</u> 。

	41-3	<p>自慢に聞こえると困りますが、<u>学生による授業評価アンケート等では、私の授業の Moodle コースを高く評価</u>してくれる声必ず上がります。むろん個人的な努力による部分も大きく、いつもいつも教育デザイン室の支援を受けているわけではありませんが、支援がなければ現在のレベルまでコースを充実させることはできなかつたと思いますし、今後も反転授業の実施など、Eラーニングを駆使した授業改善を行っていきたいと考えます。<u>「学生中心の大学」を持って任じ、FD 活動にも注力する大学である以上、教育デザイン室の業務は必要です。</u></p>
愛媛大学の独自性と価値に関連した支援成果の分析と意見	1-3	<p>このような部署(教育デザイン室)は、他の大学にはない、<u>本学の特徴ともなっているひじょうに重要な部署</u>だと思えます。</p>
	15-1	<p>教育デザイン室の業務内容については、すでに<u>愛媛大学の教育研究支援の基盤インフラとして確立されている。</u></p>
	15-3	<p>また、SPOD 事業と合わせて、教育デザイン室の業務内容は<u>他大学からも羨ましがられる魅力ある業務であり、愛媛大学の特色を形成する重要な事業の一つ</u>である。</p>
	16-3	<p>他大学でも非常勤で講義を担当した際に Moodle コースを活用したが、そうした他大学との比較に照らしてみても、愛媛大学における教育デザイン室の存在のありがたみを実感した次第である。現在の<u>教育デザイン室による業務・サポート体制は、全国的に見ても誇れる貴重な水準にあるのではないか。</u></p>
	16-4	<p>学生に対する<u>教育の面で愛媛大学が有する、他大学にはない「強み」</u>であろう。</p>
	26-1	<p><u>四国の大学連携による学生の学習コンテンツ</u>として e-learning コンテンツの開発する際、コンテンツの内容の整理、動画撮影編集支援、Powerpoint のブラッシュアップ、教材・動画の e-learning 形式への落としこみとアップロードなど、多岐にわたる支援を受けました。今後、<u>大学連携がすすめば、e-learning 形式での授業はさらに増加する</u>と思われます。<u>教育デザイン室の支援とサービスは大変必要</u>だと感じています。</p>
	34-3	<p>また、これまでの経験の中で蓄積された知識やノウハウが活かされず、発展性や質の向上が見込めず、最低限の効果しか得られず、<u>愛媛大学の財産として残さないのは非常にもったいない</u>と思います。</p>
ICT 機器活用支援に関する意見	5	<p><u>電子媒体を利用した教育ツール</u>は、今後ますます重要になる。</p>
	22-1	<p>講義で利用するクリッカーの管理および使用方法のレクチャー、また講義で利用できる <u>ICT 機器についての相談</u>などで利用している。私の本業は講義によって、学生へ効率良く知識を伝達することであり、ICT 機器に</p>

		<p>についてはあまり詳しくない。勉強する時間も取れないため、それらの専門家にやっていただいて助言を受ける機会が必要である。</p>
	32	<p><u>ICT 機器の利用に関する技術的なアドバイス</u>が欲しい時に相談できる場所がなくなる。</p>
<p>情報源としての有用性に関する意見</p>	4	<p>教育デザイン室が発行している「e ラーニングニュース」は e ラーニング情報のほか、いろいろなことを知ることができるので、たとえ利用しないとしても、<u>情報を知る</u>のに大変ためになっていると思います。もし「教育デザイン室」がなくなった場合に、このような情報紙もなくなるというのであれば、寂しい気もします。</p>